

29年度自己評価結果公表シート

作成 大阪商業大学附属幼稚園

1. 本園の教育目標

“人間形成の土台づくり”が、学校法人谷岡学園の建学の理念“世に役立つ人物の養成”へとつながるように、子ども達の遊びや生活を通じた教育活動を行います。

- ① 豊かなところを育てる・・・品格ある立派な人間に育てるために！
- ② 小学校につながる力・・・小学校でますます学力が向上するように！
- ③ やわらか頭・・・自分の頭で考える力を育てるために！
- ④ 楽しい生き方・・・自己の力を効果的に発揮できるように！

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・指導計画の充実に向け、領域研究を行うなど、教育内容の改善につとめ、個々の資質向上に主体的に取り組む。
- ・幼児の遊びや生活の中に学びや育ちを保証するため、教育目標、建学の理念と教育要領とのマッチング、積極的な研修の受講、さらには自己評価を継続的に実施する。
- ・生活や遊びの中で建学の理念、教育要領が生きていることを広く説明し、小学校につながる力、人間形成の土台づくりとしての幼児教育の実践と発信をする。
- ・幼稚園と家庭が連携して教育効果を高めることで、子ども達を預かる幼稚園から子ども達が育つ幼稚園をめざす。
- ・地域や系列校との連携策について検討し、日頃接することが少ない年代の方々と交流を深めることで園児の生活の幅を広げ、今後の成長に繋げる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関し、教職員間の共通理解を図る。	教育課程の編成を見直し、教育目標、建学の理念と教育要領の接点を求め、子ども達の実態に基づく「写真で見る教育課程」を教職員間で情報交換を行いながら、共通理解が持てるよう全員で取り組みを継続する。
建学の理念、教育要領、教育課程、子どもの実態等を基に指導計画を作成する。	指導計画は子ども達の実態を踏まえ、各学年の担当教員が意見交換をしながら、学びや育ちを保証できるものとなるよう引き続き「写真で見る教育課程」を再編成する。文字ではなく、視覚に訴えることで、個々の資質向上につながった。
教職員間の保育に対する共通理解を強化するため、園内研修を充実させ研究会等へも積極的に参加し、教員一人ひとりの資質の向上に努める。	教職員間での園内研修に役立てるため、研修会等へ積極的に参加した。研修で学んだ内容は園内研修で積極的に報告し、毎日の保育の参考となる情報を共有できるようにした。また、支援を要する子どもについての研修会は、個別の指導計画の作成等に役立てた。各行事の打合せ及び反省会や、園児に対する情報交換は日頃から行い、共通理解を

	深めることで、見通しを持った保育を実践することができた。
園だよりや子育てサロン、公式WEBサイト（新着情報、ブログ）などを通して幼稚園の情報を発信していく。	保護者との懇談、参観や学年親睦会などを定期的を実施し、子ども達の学びや育ちを保護者に伝えた。子育てサロン、絵本講演会等の行事を通して保護者の思いや考えを受け止める機会を設けるなど、丁寧に対応した。 なお、公式WEBサイトの運営は、保護者会広報部と連携し、個人情報の管理に配慮しながら、日常の様子、行事や園外保育の様子、保護者間で実施されたイベントの報告等を行った。谷学ネット（携帯電話を利用したメール配信システム）を利用し、行事予定や天候急変時の緊急連絡等を発信することで、保護者に情報を的確に周知することができている。
安全に配慮した環境づくり（施設・設備の改善）	園内、園庭の環境整備のため、定期的に遊具の点検を実施し、必要に応じて補修した。 園舎内外の補修・改善も行っている。
地域・系列校との連携	地域との連携については、幼稚園行事（夕涼み会、敬老会）などを通じて、地域住民の方に対し、園児が思いやりの気持ちを持つことができるよう意識づけるとともに、幼稚園の取組み内容、行事等への理解が得られるよう努めた。 近年一部の行事については、予想をはるかに上回る参加人数となっているため、安全に配慮した行事運営については、今後も法人本部と協議を行う。 系列校との連携保育として、昨年度に引き続き大阪女子短大幼児教育科との連携保育（保育実習）を実施した。大阪商業大学高校との連携保育では、園児の意見を取り入れた玩具（木製パズル）の制作を昨年引き続き実施した。 更に大阪商業大学とは、恒例となっている11月の大学祭において年長組が制作した絵画を展示した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・研修会等へ積極的に参加し、内容を園内研修で報告することで、情報を共有できた。 ・多様な子どもに対応するため、園児に対する共通理解を深め、見通しを持った保育を実践し、さらなる教職員の資質向上をめざす。 ・家庭と協力して教育をしていくことが賢い子どもを育てる秘訣であることを認識し、保護者との連携を密にする。 ・外部への情報発信を行い、保護者だけでなく、一般の方にも幼稚園の教育内容を理解していただけるよう努めた。 ・地域や系列校との連携は、子どもの生活の幅を広げ、心の成長に繋がった。
--

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保護者ニーズの把握と建設的なコミュニケーションのあり方を検討	引き続き建学の理念に基づいた教育に十分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を、保護者との懇談会

<p>する</p>	<p>や保育参観、担任等を通じて把握し、現代社会において求められる幼稚園の姿を確認することで、本園のビジョンを策定する基礎とする。また、公式WEBサイトを用いたタイムリーに情報を発信することで、保護者との連携を強化し、教育内容を深める。</p> <p>在園児保護者を対象とした保育参観は定期的を開催し、日常の保育の様子を保護者に公開する機会を継続して設ける。父親など男性が参加できる行事については、一層の定着をはかり、より充実した教育が展開できるよう企画・実施する。</p>
<p>教育力向上への取り組み</p>	<p>園内研修の強化と研修会(学会、全日幼、大私幼、近研関係、大阪府私学・大学課人権、大私幼プロジェクト、ちゃいるどネット他)へ積極的に参加することで、教員一人ひとりの教育力のレベルアップにつなげる。各教員の自己点検の結果を全教員にフィードバックすることで、個人の問題点があれば幼稚園としての問題点として共有し、今後の教育に活かすようにすることで、学校関係評価へと繋げる。</p>
<p>安全管理マニュアルに基づく防災・防犯体制の確立</p>	<p>震災や津波、ゲリラ豪雨等の自然災害を含む大規模災害に備え、園内の避難経路について確認するとともに、教員が各自の役割分担を自覚し、学期毎に実施する避難訓練に臨む。安全管理マニュアルについては、状況に即して定期的に更新する。</p> <p>引き続き地元の布施警察署(生活安全課)と連携し防犯訓練を実施し、防犯意識の向上を図る。また、近隣の東大阪西消防署から火災予防に対する心構えや注意事項などについて話を聞く機会を設け、より良い防災・防犯体制を構築する。</p> <p>更に、法人本部危機管理担当とも連携し、園児が安心して幼稚園生活を送れるよう、大学警備員との連携も図りながら、園周辺の定期的な巡回指導、危険箇所を把握する等、幼稚園の教職員と情報を共有するよう努める。</p>
<p>特別支援教育の充実</p>	<p>近年増加している支援を要する子ども達へのアプローチについては、専門家の話を聞き、実践に結びつける必要がある。そのため、キンダーカウンセラーとの教職員研修は継続して実施する。</p> <p>積極的に外部研修会に参加し、内容を園内研修で報告することで情報共有を図る。</p> <p>保護者と連携して、一人ひとりに合った対応ができるように個人カリキュラムを作成し、対応する。</p> <p>子ども達の発達や遊びの様子を把握し、保護者に適切なアドバイスをする役割を担うキンダーカウンセラーと連携し、多様な保護者への対応、特別支援の取り組みを実践する体制を整える。また、個別のカウンセリングだけでなく、従来から実施している保護者を対象とした行事とも連携</p>

	し、保護者に対し、子どもへの「気づき」を促すような取り組みを継続して行う。
地域・系列校との連携	幼稚園の活動内容、行事等への理解を得るべく、幼稚園行事などを通じて積極的に働きかけ、相互理解を深める。また、大阪商業大学の施設利用、学園祭での年長組の作品展示や大阪商業大学高等学校体育祭への参加やデザイン美術コースとの連携による木製パズル制作を行う。
子ども・子育て支援新制度への対応	「子ども・子育て支援制度」における「認定子ども園」への移行については、研修会への積極的な参加及び東大阪市さらには近隣幼稚園への聞き取りを行うことで情報収集を行う。 特に移行した場合の教育体制については慎重に確認したうえで、コスト、施設設備等の状況も調査し、移行か否かの検討を行う。

6. 学校関係者よりの意見

<ul style="list-style-type: none"> ・体験を重視し、感性に働きかける教育を行っていること 園内での活動はもとより、大学や高校のキャンパスも利用し、四季折々の活動を行い、園児の感性を磨き高めていく教育をおこなっていると考えられる。夕涼み会、サツマイモやジャガイモの苗植え・収穫、人形劇、プラネタリウム、餅つき大会など多くの機会を設けている。避難訓練も違う建物(高校)への移動を経験、大学キャンパス内で活動している姿も多く見かける。最近、あまり見られなくなった乾布摩擦も非常に良い取り組みであると思う。 ・園児にしっかりと社会性を身につける 家庭教育の低下が指摘されている昨今だが、話を聞く態度やいつ発言していいのか友だちとの関係など、家庭と連携を取りながら、しっかりと教え育てていこうとする姿勢が見える。 ・先生方がいつも明るく熱心であること どこであってもしっかりと挨拶し、園児と接する際には、いつも笑顔で接している。もちろん叱っている際にも、常に頭ごなしではなく「なぜ、そうしなければいけないのか」という点を意識して、園児にもわかるように話している。クラス担任以外の先生も子どもの名前だけでなく、性格なども、把握してしてくれるため、安心感がある。 ・子どもが中心であること 子ども目線で保育を考えてくれている。子どもの個性を互いに認め合う大切さを保育の中で伝えてくれている。無理をせず子どもの気持ちに寄り添った方針がとてもよかった。子ども達が自分で考え、話し合い、一つの事柄についてみんなで作りあげ協力し合うことを体験できる。 ・心を育ててくれたこと 四季を感じ動物・植物・虫にたくさん触れ合える。子ども同士で意見を出し合い、話し合うことを大切にしている。 ・遊びが楽しめること 興味を持ったことを十分に楽しめるように工夫されている。伝承遊びが出来る。絵本にたくさん出会える。 ・お昼休みのチューリップ文庫(絵本読み聞かせ)のおかげで、本への興味が強くなり「知りたい」という好奇心が旺盛になったり、本を借りる、読んでもらうから「自分で読む」という習慣づけとなったりして、今後の育ちに期待ができる。 ・子ども達がのびのびとしている点は、評価できる。他の行事や式典なども節度ある態度や振る舞いも「け

じめ」として子ども自身が自覚してできる教育を続けてほしい。

- 年に3回避難訓練を企画実施しており、教職員に対し危機感をもって対応するように指導されており、園児に対しては「自分の命は自分で守る」と園児個々に考えさせるように指導している。また、隣接の大阪商業大学高校と連携を密にとり、突発事案発生時の避難場所として協力依頼している。
- 教職員が少数であることから、行事の開催時に防犯体制が手薄になってしまわないように、教職員間での連携を密にし、教職員個々の目的・行動を共有して取組んでもらいたい。
- ホームページのトップページを見ただけでは、情報発信を怠っているかのように見える。ぜひ、「なんでもドアブログ」へ誘導する仕組みを設けてほしい。

以上のことを具現化、継続するべく、各事業を推進する。

7. 財務状況

学校法人谷岡学園として、監事及び公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。